

☆【監修のことば】  
脳相診断から見えてきた歯科医療の新しい形

医療の現場では、患者の症状を見逃さないために、臨床家は自分の目と耳、五感を駆使して診察能力を日々研鑽しています。しかし、実際には病気の症状が出てからではすでに手遅れであったり、病気があっても外見に症状を出さない場合が多数あります。

例えば、奥歯の小さな虫歯は、歯の表層を浸食しているだけで痛みもなく経過します。ただ、奥歯なら口を大きく開けて見れば虫歯を確認することができます。この場合、患者には症状がないために、歯科医がじっくりよく診なければ早期発見できません。

では、脳に虫歯の初期ほどの変化が起こったら、臨床家はどうかやってそれを診断することができのでしょうか？

この場合、臨床家には、全く手が出せません。本人が動かなければ医療は始まらないからです。患者が病院に行く理由は自分で自分の身体を心配しているからです。ところがこの当たり前のことが、医療の進歩を阻んできました。病院に行こうと思わない人の病気を見つけることができません。すなわち、自分自身を自分で知らないと解決の糸口が見つからないのです。

では、病気を疑って病院に行き、病気でないと診断されれば、

「本当に健康で大丈夫なのでしょうか？」

「違います。」

わたしは20歳の時、そう考えて医学を学び、医者になってもこの問題と向き合ってきました。歯科、医科、薬科の連携を掲げる大学で歯科医の卵たちとも机を並べて学びました。しかし、それでも病気と健康を結びつけるに十分なサイエンスを見いだすことができませんでした。

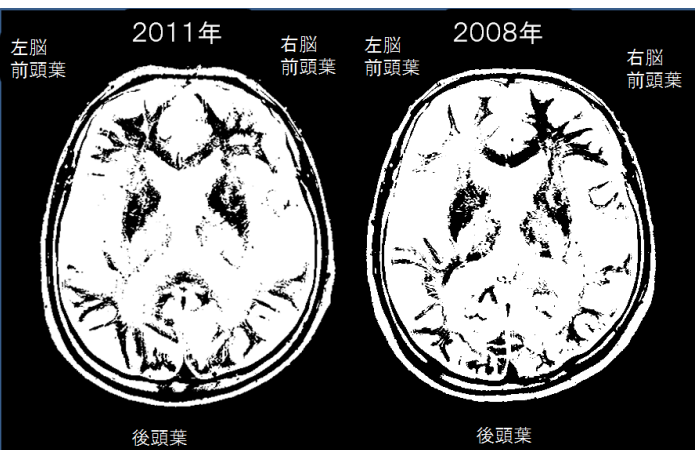
30歳の時(1991年)、脳機能をベッドサイドで光計測するNIRSの原理を発見し、言葉を発しない子どもでも脳の状態を診断できる技法を見いだしました。近赤外光を頭皮からかざして、脳組織から反射してくる光を検出する間に、咀嚼したり、考えただけで脳の働きが分かります。まさに、懐中電灯で脳を照らす聴診器の発見でした。それ以来、二十年の間に、このNIRSの技術の欠陥を解消する脳が酸素を消費する調節反応を可視化するCOE計測を発明しました。従来の脳機能計測では、脳血流の増加を活性化と考えていたので、脳での酸素と血流の調節反応が見落とされてきました。それ故に、荒井先生が本著で紹介されたCOEを使った口腔と脳機能計測は、最先端脳科学の結晶であり、今後の歯科医療の新しい可能性を示唆しています。すでに、COE計測を使った歯科領域での研究が始まっています。

荒井先生とご縁は平成20年12月、(株)脳の学校が行っている自分自身を脳から知る「脳相診断」からです。脳相診断とは、「汝自身を知れ」と古代ギリシャの格言にもある

ように、二千年以上の時空を超えて、二十一世紀の出現した脳から汝自身を知る方法です。かつて汝とは何かを示した思想家や賢人はいません。脳相診断によって、一人一人の脳が持つ汝自身のメッセージを読み取り、知る事ができます。その人の能力や生き様、人間性、時には使命をも理解できます。

左図の脳相診断画像は、荒井先生ご自身の三年ほど前の脳相と現在の脳相を表しています。2008年には、楕円形の頭蓋骨に囲まれて右脳前頭葉に黒く枝ぶりが伸びていることが分かります。後頭葉には左右の差がそれほど顕著ではありませんが前頭葉では左脳と右脳の成長に差があります。左脳前頭葉に比べると、荒井先生が右脳前頭葉をよく使って生活していることが分かります。その一方で、思っていることを十分に言葉で伝えることが苦手なことがうかがい知れます。この脳相診断以来、荒井先生の抱えてきた生きるメッセージを理解しながら、脳科学から歯科医療を実践する試みを共に進めてきました。それ故に、本書は、荒井先生が今まで苦手としてきた言語表現の中核である左脳前頭葉を使いこなす挑戦の過程で生まれました。

\*平成20年12月と平成23年6月に撮影した荒井正明先生の脳相診断画像



2枚の脳の枝ぶり画像は完全には一致した位置ではありませんが、今年のMRIでは、左脳前頭葉の枝ぶりが伸びており左右の枝ぶりのバランスが3年前と変化していることが明らかです。

すでに、荒井先生の脳相は三年前より発達しています。この二枚の脳相診断画像は、荒井先生が、自分の脳相を育てつつ新しい脳科学からの歯科医療のパイオニアであることを証明しています。歯科医療が従来見えていなかった新領域を脳から見直すことで、COEやMRIによって見えない医療から見える医療へ発展していきます。

本書の内容は、本来、医学論文の書くべき新発見がちりばめられているだけでなく、日々、未病を防ぐために実践できる手引きとしてわかりやすく整理されております。静かに進歩してきたニューロデントテストの斬新な本著を日々活用していただければと存じます。

脳の学校代表（医師・医学博士）

加藤俊徳